



# 東京学芸大学リポジトリ

Tokyo Gakugei University Repository

## 東京学芸大学附属小学校・特別支援学校の給食における新型コロナウイルス感染症対策

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-08-19 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 鳴瀬, 彰子, 今, 里衣, 高木, 眞子, 横山, 葉菜, 鈴木, 千夏, 南, 道子 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2309/00174333">http://hdl.handle.net/2309/00174333</a>

# 東京学芸大学附属小学校・特別支援学校の給食における新型コロナウイルス感染症対策

鳴瀬 彰子<sup>1)</sup> 今 里衣<sup>2)</sup> 高木 眞子<sup>3)</sup> 横山 葉菜<sup>4)</sup> 鈴木 千夏<sup>5)</sup> 南 道子<sup>6)</sup>

- 1) 東京学芸大学附属大泉小学校
- 2) 東京学芸大学附属世田谷小学校
- 3) 東京学芸大学附属小金井小学校
- 4) 東京学芸大学附属竹早小学校
- 5) 東京学芸大学附属特別支援学校
- 6) 東京学芸大学生活科学講座

## 目 次

1. はじめに .....	86
2. 学校再開後の学校の給食再開に向けた取り組み .....	86
3. 総括 .....	93
4. 参考文献 .....	93

# 東京学芸大学附属小学校・特別支援学校の給食における新型コロナウイルス感染症対策

鳴瀬 彰子<sup>1)</sup> 今 里衣<sup>2)</sup> 高木 眞子<sup>3)</sup> 横山 葉菜<sup>4)</sup> 鈴木 千夏<sup>5)</sup> 南 道子<sup>6)</sup>

- 1) 東京学芸大学附属大泉小学校
- 2) 東京学芸大学附属世田谷小学校
- 3) 東京学芸大学附属小金井小学校
- 4) 東京学芸大学附属竹早小学校
- 5) 東京学芸大学附属特別支援学校
- 6) 東京学芸大学生活科学講座

## 1. はじめに

昨年度と今年度、世界は新型コロナウイルス感染症に翻弄され、その対策に追われたと言っても過言ではない。マスクと手洗いが徹底され、その大切さが人々に共有された。また、ウイルスの感染力や変異に注目が集まり、その報道番組を2022年1月の現在もテレビ各社が競って放映している。人々の衛生感覚も、向上した人もいれば、過剰に反応している人もいるが、少なくとも見えないが感染性のある菌やウイルスが様々なところに存在するという事は多くの日本人に認識されたと考えられる。

学校給食の現場は、3月からの全国の学校閉鎖<sup>1)</sup>が3ヶ月で解除され<sup>2)</sup>、その後、すぐには完全給食には戻せないところから、管理職との相談の上、各学校それぞれの献立や喫食環境を検討した。

学校の給食の現場は、平素から日々その見えない細菌やウイルスが、児童・生徒の食事に混入しないように細心の注意を払っている。飲食店の営業自粛要請や時短要請など、現在でも自治体から要請が出ている都道府県があるが、飲食する場は、マスクを外し食事をする事で、少なからず会話をしたりするために感染リスクを高めるのである。学校給食の現場は、まさにそのリスク管理と児童・生徒への栄養給与の間で、管理職を含め気の張り詰めた年月だったが、この経験はインフルエンザやノロウイルスの増える時期の対策にも参考になりうるので、各附属学校の財産として残すべきだと考える。

## 2. 学校再開後の学校の給食再開に向けた取り組み

### 大泉小学校

#### ①学校再開後の校内での検討

2020年3月～5月は緊急事態宣言の発令後、食材の無駄を極力減らすために発注したばかりの食材のキャンセルをおこなった。3か月間の休校のあと、分散登校の開始にあわせて給食も再開することになった。三密（密集・密閉・密接）を防止する方法、一方通行で人が交差しない流れにする方法、手洗い、手袋の着用、アルコール消毒のタイミング、おかわり等の給食の決まりの見直し、確認に迫られた。教員の声掛け、児童の一方通行の流れ等を時系列にイラストを入れて示すことで、教員や全校児童が一目でわかる資料を作成し、各クラスに配布した。

「栄養教諭が対策案を作成」⇒「生活指導部会に提案」⇒「修正案を管理職に提出」⇒「企画会での承認」⇒「教員に依頼」の流れで、校内で感染予防の共通理解を得る資料を作成することになった。

管理職から、密を避けるために登校学年は半分にする連絡を受けた。（奇数学年と偶数学年）これにより、授

業も給食時間も1クラスの児童を2クラスに分けて実施することになった。給食も1クラス分を半分に分けて配缶し提供した。これにより、三密防止ができたが、担任の目が十分に行き届かなくなるデメリットも生じることになる。児童への十分な事前指導が欠かせないと同時に、特に低中学年においては、登校学年以外の教員や専科教員の協力を得ることが必要となった。ここで前述した、児童の注意点を示したイラスト入りの資料と時系列で示した教員、給食当番児童、それ以外の児童の流れや声掛けのポイントの資料が大きな効果を発揮した。

## ②配膳、献立と喫食

給食の内容は簡易とせず、一食分の栄養摂取基準を満たす内容を提供した。このために、徹底した手洗い、アルコールを使った消毒、使い捨て手袋の活用、感染の恐れがある場面では教員が担当、などとした。学年に応じ、基本的に盛り付けは教員がすることにした。

教室の換気のため、窓をこまめに開け、空気の入替えをする。給食の時間も同様に行った。給食を受け取りに行く際は、密接を避けるため間隔を置き、交差を避けるために児童の流れを一方向にした。

マスクを外しての食事となるため、グループを作らず一方向をむいて、黙食とした。食事の前後のあいさつはマスクをつけてすることにした。おかわりは教員が行い、児童は居残って食べることはしないことに決め、一斉に食べ終わることにした。

片付けの際も給食を受け取る時と同様に児童が一方向に流れるようにした。密集しないように、時間差をつけて片付けた。食器に手を触れないようにし、手洗いをしてから給食着を脱ぐようにした。

以下、下記に示した内容は、給食の実施において、全教職員が共通理解し、実施してほしい内容を整理し教育計画（生活指導部—給食）に保存した資料である。

---

### 新型コロナウイルス感染対策（給食の時間）

---

1. 教員は特に以下の6つの点に注意を払い指導する。

①給食開始までに、手洗いの指導をしっかりと行う。

（手洗いのポイント6つを意識して洗う）

②給食の時間の会話は、準備から後片付けまでの間、必要以外はしないよう指導する。

③健康状態の良くない児童は、給食当番をさせない。（給食当番を記録しておく）

④児童が他学年の配膳に手伝いに行くことをさせない。

⑤配膳は学年を考慮し、教職員が行うことも考える。

⑥配膳はセルフサービス方式（自分の給食は、自分で運ぶ）にさせる。

2. 準備

①トイレ、手洗い、着替えの順でする。

②給食当番以外は着席する。

③ワゴンを取りに行っている間に教員が机をふく。その後に児童がランチオンマットを敷く。

④盛りつけの用意ができれば、間隔を開けて並び、不必要なおしゃべりは控え、給食を受け取り席に着く。

⑤給食小話は、先生（児童）がマスクをしたまま読む。

⑥給食小話を聞いた後、「いただきます」のあいさつをしてからマスクを外す。外したマスクは、給食着のポケットに入れる。

3. 食事中

①インフルエンザと同様にグループを作らず、一方向を向いて食べる。

②会話ができないので、落ち着けるクラシックなどをBGMで流す。（学年の先生にお任せする）

③配膳後の量の調節、おかわりは教員が行う。

#### 4. 後片付け

- ①口をふき、マスクをしてから、「ご馳走様でした」のあいさつをして順番に食器を返す。
  - ②食べ終わらなかった児童も、居残りして食べることはしない。
  - ③牛乳パックは、たたまない児童を決め、それ以外の児童はたたんでそれに入れる。
  - ④給食当番は、ワゴンをきれいにして、後片付けの決まりを確認し返却する。
  - ⑤返却後に手を洗う。
  - ⑥手を洗った後に給食着を脱ぐ
- 

#### ③課題

2年目になると、配膳や後片付けの際の児童の三密や、おしゃべりに対する意識、緊張感の薄れを感じることもある。改めて新型コロナウイルスの感染症対策の決まりを児童とともに再確認し、学校全体で、一つ一つ確実に決まりを実行していくことが必要と考える。

#### 世田谷小学校

##### ①学校再開後の校内での検討

一斉休校が決定された2020年3月は、発注済の食品の全キャンセルを食品業者に依頼した。調味料類は納品してもらったが、チーズなどの生鮮類は業者に廃棄を依頼した。3月から5月までは給食室は完全に閉鎖された。

校内の感染対策検討委員は、管理職・校務分掌の部長職・養護教諭・栄養教諭がメンバーであり、登校再開後にどのように感染対策を講じるかについて検討した。手洗い場所に簡易の自動水栓と使い捨てペーパーを設置すること等が決定され、他の教員に周知されていった。給食室からの情報発信としては、給食のレシピを2回配信した。なお、本校の大学雇用の正規の調理師1名と調理作業補佐8名は自宅待機としていた。

分散登校開始の6月、新しい生活様式での簡易給食再開に向けてのマニュアル作りを行った。マニュアルは、世田谷区小学校研究会食育部経由で区立の小学校のマニュアル資料を参考に以下の1～7の重点項目を作成した。

---

- 1, 全員食事前後の手洗い徹底すること。
  - 2, 机・配膳台は使用前に消毒布巾で拭き上げを行うこと。
  - 3, 配膳は大人が行うこと。
  - 4, 「いただきます」「ごちそうさまでした」の挨拶はマスクをして行うこと。
  - 5, 教室前方向を向いて食事をする事。
  - 6, 食事中はクラスで「食べられないからあげる」等の食べ物を紹介したり取りは禁止すること。
  - 7, 片づけは、自分で行う。密にならないように片づける順番を指導すること。
- 

#### ②配膳

2学期からは完全給食が再開された。ただし、食器の数を2つにとどめた。児童らの給食当番も再開となった。給食当番の児童らには、手洗い後、使い捨てビニール手袋を着用させた。感染者数が減った10月～12月は、食器の数を3種類使い通常の給食状況に戻った。緊急事態宣言中は、汁もの・デザート・牛乳と、それに主食を追加した簡易給食を行った。宣言が明けた2月末には、完全給食が再開されることとなった。担任が配膳、片付けを行うことが1か月続いた感染症予防対策対応初期は、給食室が各学級にルールを守るように「お願いをする」要素が強いと感じた。しかし、長引く感染症対策が日常となるにつれて、校内で「ルールを守っていこう」とい

う秩序が本校の教員間をはじめ学級内に育っていった。

### ③献立と喫食

年明けの1月に感染の再拡大のため、予定されていた給食は、新学期の3日前に急遽校内会議で簡易給食実施へと変更することが決定した。給食当番ではなく、担任が配膳する方法へと置き換え、配膳しやすいように汁物・デザート・牛乳の献立とした。主食は家庭から持参をお願いしたが、持参する家庭は全体の3割程度だったため、2年半ばから、簡易に配膳ができる主食を準備した。パン工場からは、「感染症対策による発注は避けてほしい」といった旨の通知が都学校給食会経由で届いていたこともあり、埼玉県内の小学校が実施していた食品用ブルーラップで包んだ「おにぎり」を参考とし、本校においてもブルーラップで包んだごはんを主食とした。



図1 2020年7月～2021年3月間の給食献立の変遷

### ④給食指導

難しい課題は、対策時の「食事の挨拶」の扱いである。感謝の気持ちを表現する日本特有の食事の挨拶は、個人で行ってもよいのではないかと、わざわざマスクをして静かに挨拶を発声するのは疑問だという意見が担任から届いた。食育を推進する栄養教諭としては、全員で揃って食事を食べる学校給食の社会性の観点から、食事の挨拶は対策時にも行う意義を強調して教員に周知した。しかし、どのような解釈であれば教職員・児童らが全員で食事をする学校給食の意義の理論的な説明が果たせるかについては検討の余地がある。

## 小金井小学校

### ①学校再開後の校内での検討

児童全員が、石鹸で手洗いをしっかりと行い、清潔なハンカチで拭き、アルコールで手指消毒を行う。給食の運搬は給食当番も行うが、盛り付けは教職員または実習生などの大人が行った。また、セルフ方式で配膳し、複数の手で触れないようにした。食事の前後には、食事場所を十分に換気し、エアコン使用時においても換気するように周知した。配膳台や机はアルコールを浸したシートで拭き使用した。2021年11月1日からは給食当番と配膳をする教職員は、使い捨て手袋を着用してから給食当番活動をしている。2021年1月17日からは、校内での感染者が増加していることから、感染対策について管轄する保健所から指導を受け、食事前後の机の消毒が必要になった。ウイルス除去用のアルコールタオルが配布され、自分の食事場所を拭いている。また、食堂のドアノブや手が触れる箇所は栄養教諭が1日1回以上消毒をしている。8・9月分のアレルギー対応は、献立内容の変更に伴い、再検討した。

### ②献立と喫食

献立は主食（個包装）、汁物、おかず一品、飲み物、（個包装や密閉容器に入ったデザート）である。飛沫感染対策のため、主食の個包装化を実施した。ご飯は弁当箱に詰めた状態、パンはビニール袋の個包装、デザートは個包装や密閉容器に入ったものをつけた。以前は1・2年生は各教室、3・4年生は第一食堂、5・6年生は第二食堂で食事をしてきたが、新型コロナウイルスの流行で、1・2年生は各教室、3年生は第一食堂、4年生は第二食堂、5・6年生は各教室で食事をしている。5・6年生の給食当番は、別棟に置いてある給食を渡り廊下や階段を通過して教室まで運び、大食缶は熱い汁物が入り重いため担任が運んでいる。食堂の使用人数を減らし、座席を



工夫して一方向で黙食をする。おかわりは教職員が挙手した児童のもとへおかわりを持っていくようにした。給食時のマスクの着脱にメリハリをつけ、「いただきます」の挨拶の後マスクをはずし、食事終了後すぐにマスクをつけている。

### ③給食指導

10月実施予定の「なでしこ給食献立（6年生が家庭科の授業でたてた献立）」は、実施が難しいため延期し、11月の読書月間に向けた「おはなし給食献立」を10月に前倒しで実施した。2021年11月1日以降給食内容を通常通りに戻した。10月から3月までの期間、月に一度の家庭から持参する「お弁当の日」の取り組みは通常通り実施した。

### ④課題

パンやご飯は個包装された状態で納品してもらったので、一人当たりご飯は約30円、パンは5円の費用が上乘せされ、給食費が高くなった。おかずが一品になり、野菜の摂取量が減るため、汁物を具沢山にして補った。

### ⑤教育実習と行事

教育実習生は、初日の就任式と最終日の離任式を除いて各学級2名ずつの分散出勤となった。給食は、各学級2名分（2名×5学年×3学級=30食）のみ用意した。3名以上出勤する場合には、給食を食べる2名以外は弁当を持参してもらい、密を避けるため別の場所で食事してもらった。宿泊行事（至楽荘）が延期されていたが、6年生は、10月25日～27日に1組、10月27日～29日に2組、11月1日～3日に3組という日程で学級ごとに実施された。宿泊時のアレルギー対応については、通常は対面だが、グループウェアで保護者と連絡を取り、確定したアレルギー対応表をもとにグループウェアで個別面談をした。

## 竹早小学校

### ①学校再開後の校内での検討

2020年6月12日に給食を再開したが、児童の半数ずつの登校のため、2日間同一の献立を6月29日（月）まで継続して行った。6月30日（火）から全校児童一斉登校が開始され、給食も同様に通常人数での提供となった。コロナ前は机の上に直接おぼんを置いていたが、コロナ後は感染予防対策として「ランチョンマット・箸などの食具・ミニタオル・予備用マスク」をセットにした持ち物を必須とした。コロナ前は学年の縦割り給食を行っていたが、学校として学年の交流を控えていることに従い、現在も縦割り給食は行っていない。

### ②献立と喫食

献立内容は6月は「主食と果物、牛乳」から始まり、「主食、おかず1品、汁物または果物、牛乳」などと徐々に幅を広げていった。給食再開当初はパンや麺なども個装で提供していたが、社会での規制の緩和とともに通常へと戻していった。直接手で触るような調理パンについては、ペーパーナプキンを付けるなどの対応をした。食具を使用しない果物は、一時期は提供を控えていたが、2021年12月現在は通常通り提供をしている。

配膳は学年に応じて行い、低学年は教職員が全員分食器に盛り付け、ビュッフェ形式のように児童が自分の分のお皿のみを取りに来ていた。高学年は自分たちで配膳をしたが、必ず使い捨て手袋をはめてよそっていた。机は班にはせず、全員が一方向を向いて黙食をした。おかわりは、担任があらためて消毒をしてからよそうこととした。食べ終わったら机を消毒し、手洗いをして給食時間を終了させた。片付け後に残って食べることで感染のリスクが高まると考え、全員が一斉に片付けを行うようにした。

### ③給食指導

また、コロナ禍の給食の5つのポイントとして以下の点を児童と共有した。

- 1、準備の前にせっけんで手を洗おう！
- 2、机をふきんで拭こう！（次亜塩素酸に浸したカウンタークロスで机を拭く）

- 3, 毎日清潔なランチョンマットを用意しよう！
- 4, しゃべらない！（準備中も私語はせず，黙食）
- 5, みんなで一緒に「ごちそうさま！」（ごちそうさまをした後に残って食べない，一斉に片付けをする）

#### ④献立以外の変更点

給食時間は会話を防ぐため，クラスによってリクエスト曲を流す等の工夫をしていた。喫食中にビデオを流すことは，ながら食べとなるため避けた。

時間が経つにつれ，給食当番の使い捨て手袋使用により，食器が滑り危ないことから，高学年から手洗いと消毒をしっかりとすることで使い捨て手袋をせずに配膳を行うようになった。ただし口に直接入る物（食具や果物など）は今まで通り使い捨て手袋を使用して配膳を行った。喫食場所はランチルームを使用せず，各クラスで配膳から片付けまでを行った。

#### ⑤教育実習

実習生に関しては弁当の持参，ランチルームや特別教室などで距離をあけて食べるように指導をした。給食指導は配膳，片付けに参加してもらい，テーブルクロスで机を拭く作業などをお願いした。

#### ⑥課題

野菜が不足しやすくなったことから，スープを具沢山にするなどして対応をした。個装にすることの費用や，使い捨て手袋の消費が激しく，給食費がかさむことについては今後検討をしていきたい。

### 特別支援学校

#### ①学校再開後の校内での検討

2020年7月1日より給食再開された。2020年3月からの休校以前（以後コロナ前とする）は，幼稚部は学校職員が給食食缶を幼稚部棟へ届け，ランチルームで配膳・喫食を行っていた。小学部は，児童と教員と一緒に教室へ食缶を運び，配膳・喫食を行っていた。中学部と高等部は，ランチルームにて，生徒・教員で配膳し喫食していた。

再開後は，感染症予防の観点から幼児・児童・生徒（以後子どもとする）による給食当番は休止し，給食の準備・配膳及び後片付けは教職員が，子どもの活動と交差しない限られた場所で行う事とした。食缶を学部ごとにまとめ，食缶の数をできるだけ減らした。また，一人一人の間隔をあけ，同一方向を向いての喫食を全校児童生徒が行えるよう，中学部の食事場所は，各教室へ変更となった。配膳場所のランチルームから教室へ運ぶための配膳車と個人盆が必要となり調達した。

#### ②献立と喫食

食事内容は，教職員による食事介助及び指導は，最低限にする前提で，感染予防及び配膳しやすさを重視した。以下具体的に示す。

- 1, 手を使用して食べるパン・果物・ホイル焼き類を実施しない。
- 2, 給食室で加熱工程後に作業工程のある冷菜・デザートを実施しない。
- 3, 配膳・片付けに時間がかからないよう食器の使用数をできる限り少なくする（コロナ前4点→2点を主に）。
- 4, 多くの子が食事介助を必要としない献立・食べ慣れた味のものとする。

教員は子どもの食事介助・指導を最低限なものとし，自分の喫食は一緒に行わないこととした。おかわりは基本的に禁止し，量の過不足の調整は「いただきます」をする前に教員が行う事とした。その後，感染状態や子どもたちの手洗いがていねいに行えている現状を踏まえ，調理パンを除くパン・汁のある麺（うどん・ラーメン等）・冷菜・デザートは10月より再開した。果物は，介助が必要な子が多いため，フルーツポンチやヨーグルトに入れる等で再開させた。



### ③給食指導

巡回指導や個別指導が難しくなった。その日の給食の紹介等のおたよりは、ICTを活用し、動画等を作成し配信した。

### ④調理員の対策

調理員への基本的な指導は委託会社が行った。給食室へはランチルームで手洗い・うがいを行ってから入室する。調理作業は、できる限り真正面に立たない。出勤・休憩・退社は、できる限り時差を作り休憩室・着替えは1人ずつ行うことにした。給食を食べる際には、給食室内の休憩室では距離が保てず、ランチルームの教職員スペースも使用した。

### ⑤課題

1. 幼・小学部では、教員の喫食と子どもたちの食事場所を別にしたため、教員は交代で食べることになった。結果、教員一人一人の喫食時間が減り盛り付けの量が少なくなった。また、子どもたちは、介助無しで食べられる食事量の盛り付けとなり、結果として、残食が多くなった。
2. 中学部・高等部では個人の体格の差が大きい為、学部でまとめて配缶及び「おかわり」無しとしたため、摂取量に過不足があったのではないかとと思われる。
3. 全学部、喫食中の声掛けができないので、箸の持ち方や食器の持ち方、背筋や足の置き場等の指導が難しくなり、食べ方が気になる子どもが見られるようになった。
4. 食器の数を減らしたことにより丼献立が増えた。スプーンで黙々と食べることにより、食べるスピードが速くなり、噛む回数や噛み方に課題を感じる子どもも見られるようになった。
5. 栄養価としては、食器数の減少に伴い献立数も減り、ミネラル・ビタミンの充足率が80%程度まで下がった。
6. 調理員との日々のミーティングは毎朝、作業に入る前に全員で休憩室で行っていたが、距離が保てないのと時差出勤のため仕事の開始時間が揃わず、さらに納品と重なってしまったりと毎朝同じタイミングでミーティングをすることがとても難しい状況であった。

### ⑥最後に

コロナ前は、その日の給食についてのお便り「もぐもぐ通信」をクラスに1枚配布し、代表が読み上げたり、回し読みをしたりしていたが、給食再開後は休止していた。2021年3月に高等部3年生の卒業記念として「高等部3年生が考えた給食」を実施するにあたり、どうしても全校に紹介したいという栄養教諭の思いから、同月の3日より動画で作成した「デジタルもぐもぐ通信」を配信することにした。ランチルームで食べる高等部には、栄養教諭が電子黒板に給食の時間に繰り返し再生し、幼・小・中学部の活用の仕方は担任に任せることとした。小学部では、給食が教室に届くのを待っている時間を活用し、給食への意欲を高める活動のひとつとなり、中学部では、食事中や食後に流し、食べ終わった子の待ち時間に活用しているのを見かける。一人で黙々と食べていると、どうしても顔が机に近づき姿勢が保てない子が動画を見ようとするので、顔が正面を向き、背筋が伸びるという効果もあった。

2021年12月現在は、給食当番・片付け・喫食場所・食べる向きは再開後と変わらない。献立は、食器を3点使用する日が増えてバリエーションが増えてきているが、コロナ前の4点には戻せず、介助が必要となる献立再開の見込みはまだない。栄養教諭による各教室への巡回や個別の声掛けは、まだ難しい状態である。しかし、デジタルもぐもぐ通信は、週に一度程度、行事食や郷土料理を取り入れながら給食だけでなく、その地域の特色や音楽を紹介する等の配信を続け、子どもだけでなく大人からも「楽しみ」と言ってもらえることが増えた。今後もこれをうまく活用し、巡回指導や対面指導の代替えとなるよう組み入れていきたいと思う。

### 3. 総括

東京学芸大学の附属小学校では、新型コロナウイルスの流行により、各学校の実態に合わせた取り組みが行われたが、共通しているのは、再開直後は簡易給食や食器類を減らしたものとなり、徐々に完全給食へと移行したことである。これらは文科省の急な学校閉鎖の決定、再開の通知も新型コロナウイルスの流行の先行きがみえないところが影響している。給食現場にとっては準備期間の短い中での再開を余儀なくされた。

文科省の通達で、調理室や配膳中でのウィルスの混入<sup>3)</sup>を考え、その結果として決定された簡易給食では、皿数が少なくなったので野菜不足となり、それを補う意味で具沢山の汁物を提供している附属小学校がみられた。しかし、栄養給与量については不十分なところがある。千葉大学の川嶋<sup>4)</sup>らは、簡易給食で、エネルギー、炭水化物、レチノール当量、ビタミンC、食物繊維、穀類、豆類、野菜類、果物類の摂取が少ないことを報告している。そうすると、給食の本来の目的が失われるわけであるが、栄養教諭らは管理職と相談しながら手探りで、栄養給与量を適正に近づけることから始めていったことが伺える。

給食の本来の目的は、成長期の児童の栄養補給である。国立大附属小学校・特別支援学校では、学校運営の一部を保護者の寄付金で賄っている。今回のような緊急時の簡易給食による包装による予算の超過などにも寄付金を活用した対応ができるような給食の調達ルートやシステムづくりを今後、保護者と共に考えていく必要がある。

### 4. 参考文献

- 1) 文部科学省：新型コロナウイルス感染症対策のための小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における一斉臨時休業について（通達）、[https://www.mext.go.jp/content/202002228-mxt\\_kouhou01-000004520\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/content/202002228-mxt_kouhou01-000004520_1.pdf)（2020年10月29日）
- 2) 文部科学省：新型コロナウイルス感染症に対応した学校再開ガイドライン [https://www.mext.go.jp/content/20200406-mxt\\_kouhou01-000006156\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20200406-mxt_kouhou01-000006156_1.pdf)（2020年10月29日）
- 3) 文部科学省「新型コロナウイルス感染症対策としての学校の臨時休業に係る学校運営上の工夫について（通知）」、[https://www.mext.go.jp/content/20200501-mxt\\_kouhou02-000004520\\_2.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20200501-mxt_kouhou02-000004520_2.pdf)（2020年10月29日）
- 4) 川嶋 愛、中西明美、鈴木降司（2021）コロナ禍における学校給食の栄養提供量および摂取率の検討 千葉大学教育学部研究紀要 69、223-229